STOWN TO NEWS

第17号 2022.11

がいこくじんじどうせいと にほんごしどう かんが 外国人児童生徒の日本語指導を考える

A くん(14歳)との出会い

MIC の日本語教室前期の授業が貼まってから 1 か月余り過ぎた火曜日、5月24日のことだった。スタッフに連れられて教室に入ってきた A くんは曽許の涼しげな、まだ幼さの残る可愛らしい少年であった。ネパールから両親と来自したと言う。お父さんと通訳と称する人と3人で申し込みに来たそうで、お父さんも本人も日本語は全く分からないと



のこと。申込用紙に永住と書かれてあったところから就学目的であることが推察できた。

「こんにちは」「お名前は」といくつか問いかけて反応を探る。「こんにちは」には「こんにちは」と応じてくれたが他の問いかけには一切反応がなかった。お父さんの希望で毎日でも日本語に触れさせたいとかで火曜日のビギナークラスのみならず木曜日の初級 II、初級 III、 夕方のクラスにまでも出席する意欲と熱心さには感心した。

Aくんの学習状況

A くんの個人レッスン



MICの前期授業が終うして、Aくんとのご縁はなくなったと思っていたところへ個人レッスンの依頼があり、一葉で Aくんと尚き合うことになった。 改めて Aくん仕様のカリキュラムを考えた。文型の導入順序、例えば早期に入れたい表現として挨拶、許可を求める表現、作の不調を訴える表現、友達と話すための普通形(体)、待遇表現(法達・先生)、文字の扱い、縦書きの文章を読むなど。

まだまだ指導半ばで時間切れになってしまったのは残念だが将来ユーチューバーになりたい A くん、学校生活に適応して楽しく日々を過ごしてほしいと祈っている。

今後の課題

現在の国際情勢から、これからは様々なルーツを持つ児童生徒を受け入れる機会が増えるとかずえられる。受け血の設置、教が、教師のトレーニングが急務だと思う。児童生徒間にも年齢差、レディネスの差がある。複数の学習者の指導には教師の力量が問われる。 今回、A くんは随分回り道をしたように思う。受け入れ体制が整っていればもっと効率よく学習できたのではと思う次第である。

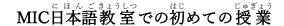
学ぶことの意味や楽しさを味あわせる工夫

成人の学習者と異なり、児童生徒の場合は、日本語学習に目的意識を持てない場合が多く、学習内容が定着しないことがよくあります。 学習意欲を損なわせないためにも、質質で学習項目に留まって暗記を強要しないようにし、指導の仕方に工夫をしましょう。目で見てすぐに理解できる



教がを開意したり、子どもの興味が持続するようなゲームを取り入れたりして、簡じことを反復していると気付かせないような工夫をすると効果的でしょう。

「徳島県 外国にルーツを持つ子どもの受け入れ手引き」 http://jci-tws.com/f-children/



今夏、MIC の日本語教室で授業をさせていただく機会に恵まれ、初めて学習者の前に立って(『みんなの日本語 I』 13課を)教えることになりました。

宇野先生のご指導を荷度も荷度もいただきながら、絵カード・文字カード・教う繁を作り道し、授業 当日まで必死で準備しました。その間、一つの単語を説明するにしても 13 課までに習う語彙や文型しか使えない為、使う日本語に制限が付く難しさ、言語だけではなく背景にある文化をもしっかり理解していないと、母国語といえど簡単に無責任に教えるということはできないということを思い知りました。そのせいか普段気に歯めてもいなかった日本語や文法に敏感になり、自分自身の使用している日本語が本当に正しいのか自信がなくなってしまうこともありました。実際の授業は繁張して、うまく説明できない単語もあり、学習者の皆さんの温かい協力のもとに乗り切った場面もありましたが、最後まで何とか終えることができました。一声の大きさ・話すスピード・説明の方法・日本語や文化への知識等を、まだまだ課題は直積もいいところですが、私にとっては大切な経験となりました。この責重な経験をもとに、宇野先生のさらなるご指導を仰ぎながら、今後も精進して一歩一歩進んでいきたいと思っております。

日本語学習を終了して

私は宇野先生の初級 $I \cdot II$ と塩入先生の勉強会に参加していました。授業を受けて、自分が使っていた日本語にこんなに間違いがあるのだと恥ずかしかったですが。そして、小学生の『国語の教科書』と『みんなの日本語』を見比べて、「私たちが習ってきたものとは違うんだなあ」と言葉としての日本語を改めて知ることができる貴重な機会でした。

せっかく勉強会に参加したのですが、まだ日本語を教える機会を持てていません。3年前からお手伝いしているこの広報が唯一の日本語学習です。字野先生や塩入先生と原稿のやりとりのメールを送る時にはいつも「これは間違った使い方ではないかな」「敬語の使い方は大丈夫かな」と繁張しながら文章を書いています。少しずつでもこのドキドキが少なくなるように『みんなの日本語』を片手に学習を継続していこうと思います。そして、子育で等もう少し落ち着いたら外国の方に教えられるようになりたいと思います。

おかくさにほんごきょうしつ 若草日本語教室から

韓国出身の料 (Su Yong Park) さんは今年の7月日本語能力試験N4 に合格して、次はN2の勉強をしたいということで教室に来た。草く日本語ができるようになって就職したいという称さんのはやる気持ちはわかるが、N4 から N2 へのハードルは高い。N3 の基礎をしっかり身につけないことには N2 に進めない。

韓国出身でも若い朴さんは漢字が苦手だ。そこで、N5 の漢字の書き方、読み芳、彼い芳から始めた。日本人の輿さんがとても協力的で、家で漢字の書き方などチェックしてくれている。家での会話はほとんど英語だったが、最近はできる限り日本語を使うようになったそうだ。今はラーメン屋でアルバイトをしながら会話の日本語も学び、苦手な文法にも取り組んでいる。いろいろな芳のサポートを受けて、朴さんの日本語は一歩一歩前進している。この 12 月には N3 に挑戦する予定だ。日頃の努力が実を結び、合格できるよう祈っている。

チャン(Chan Ki Pui Alfred)さんは20年前に香港で日本語能力試験3級 に合格している。 働きながら独学で3級 に愛秀な成績で合格した彼の言語学習能力はすばらしい。18年前に転勤で神戸に来たが、勤務先がアメリカの会社のため、社内でのコミュニケーションは全部英語。 奥さんとの会話も幸に英語と広東語で日本語を使うチャンスはほとんどなかった。 定年退職後、時間にゆとりが出来たので、また日本語を習いたいと若草日本語教室を訪れたのはこの夏のことだった。



が 朴さんと矢野さん



おかくさにほんごきょうしつ 若草日本語教室



チャンさんと影野さん

「は・が」「へ・に」「を・で」: 学習者 の誤用例を考える

「えひめ日本語ネットワーク NEWS」(2017年12月発行)の「夢びのコーナー」では学習者の 誤開例として以下の文が取り上げられている。

- 1. バスは来ましたから、バスへ乗って大学へ行きました。
- 2. 日曜日、スポーツセンターへ行ってプールを泳ぎました。
- 3. 母は作る料理はおいしかったです。

【誤用例1】 バスは来ましたから、バスへ乗って大学へ行きました。

物文1の「バスは来ましたから」は間違いで、「バスが来ましたから」が荒しい。首の前の境は象を話し手の判断を入れず、そのまま表現するとき、主格は「は」ではなく「が」が付く。

してが、 げんしょう しぜんげんしょう ひと どうぶつ こうどう 目前の現象 (自然現象や人・動物の行動など) +が+動詞

- 柳 ①南が降っています。
 - ②あっ、犬が来た!
 - ③電車がホームに入って来ます。

「バスへ乗って」の「へ」は「大学へ行く」のように方向を**まずす助詞であるから、「バスに乗る」がだしい。「に」は動作の到着「点(乗る場所)を**ます。

場所・乗り物(到着点)+に+動詞(乗る、入る、帰る、着くなど)

柳 ①タクシー**に**乗ります。

- ②電車が駅に着きました。
- ③教室**に**入ります。

誤用文: ×バスは来ましたから、バスへ乗って大学へ行きました。

だしい文: ○<u>バスが来ました</u>から、<u>バスに乗って</u>大学へ行きました。

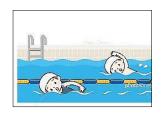
練習; 1. あっ、バスが来る! (①電車、②犬、③山田さんと奥さん、④パトカー)

- 2. 電車に乗ります。(①バス、②自転車、③車、④飛行機)
- *「(乗り物) に乗る」を教えたら、「(乗り物) を降りる」もペアで教えておくとよい。



【誤用例2】 日曜日、スポーツセンターへ行ってプールを泳ぎました。

物文2の「プールを泳ぎました」は「プールで泳ぎました」が正しい。
「を」は「ご飯を食べる」のように動詞が表す動作の対象を表すが、
「で」は動作が行われる場所を表すので、「プールで泳ぐ」が正しい。



<u>ますます</u> 動作の行われる場所+で+動詞(泳ぐ、飲む、遊ぶ、勉強するなど)

- が **①海で**泳ぎました。
 - ②喫茶店でコーヒーを飲みます。
 - ③公園**で**遊びました。

 $i_{\rm p}$ $i_$

 $\stackrel{tt}{\text{E}}$ しい $\stackrel{xh}{\text{C}}$: \bigcirc 日曜日、スポーツセンターへ行って $\frac{\mathcal{J}-\nu \overset{xh}{\text{C}}$ まました。

^{ねんしゅう} 柳 プール・泳ぎました→プール**で**泳ぎました。

- 1. 喫茶店・コーヒーを飲みました→
- 2. スーパー・買い物をしました→
- 3. 公園・遊びます→
- 4. 図書館・勉強します→

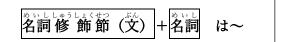
【誤用例3】 母は作る料理はおいしかったです。

例文3の「母は…料理は…。」のように、一つの文に「は」が言つある場合は、一つが取り立ての「は」と考えられる。
この文が伝えたいことは「料理はおいしかった」で、「その料理は母が作る」と料理の説明をしている。つまり、「料理

 対する名詞修飾

はおいしかった」が主節で、「母は作る」の部分は「料理」を説明する名詞修飾
節である。名詞修飾節には「節の主語(母)は「が」を使う」「節の中の述語は普通形」という
ルールがある。「母は作る料理」は間違いで、「母」が作る料理」が正しい。





誤用文: ×母は作る料理はおいしかったです。

ただしい文: 〇母が作る料理はおいしかったです。

習: 例 (父は料理を作ります) 料理はおいしいです **◇父が作る料理は**おいしいです。

- 1. (きのう私は は は 使画を見ました) 映画はあまりおもしろくなかったです せん
- 2. (きのう ξ だちとパーティーへ行きました) パーティーは ξ のったです \to
- 3. (カリナさんは $\frac{1}{k}$ をかきました) 絵はとても上手です→
- 4. (ミラーさんは写真をとりました)写真はとてもきれいです→

矢野通子



きんきょうほうこく 近知告



管さま、台風の被害は無かったでしょうか。台風14号の強風で、境内の古木が倒れ、祖父が立てたお稲荷さんの鳥居が被害を受けました。そこで、伏見稲荷に参拝に行くずまたいて母とないとう意味に行ってきました。外国人の姿はまばらで、日本の若者が大勢でした。

8 万 は、外国にルーツを持つ子どものための「寛休み日本語チャレンジ教室」 全8 回のうちの 4 回に参加しました。 (2 百以上参加できる人



伏見稲荷大社

が交通費無しの無償ボランティアとして参加できます)多言語コーディネーターの芳(彼女自身は、毎土曜日夜、日本語教室を開催しています)を中心に国際交流協会会員と隣の駅にある 市立高校の生徒で、外国にルーツをもつ小学生を対象に資休みの宿題をサポートしています。 高校生は、子どもにとっては身近なお兄さんお姉さんのようでとても楽しそうです。子どもの性格や学習能力、親の熱心さなどにより、日本語の習得にはかなりの差があります。

以前紹介したワンペアレッスンの生徒は、結婚の為帰国し、しばらくは活動休止でした。9月から新しい方(小中学校の ELT)を担当することになり、テキストも『げんき』に変わりました。日本語はひらがながやっと、日本の文化も詳しくないようです。何から教えればいいのか、どう話をすればいいのか悩む日々です。

ただいでは、当事者が外国籍という事があります。通訳がつく場合もあります。ただ、担当して が感じることは、難解な法律用語ではなく、単力直入にやさしい日本語で話すとよいということ のようです。

9月初めに気温の変化についていけず、喉が痛くなりました。風邪と思いましたが、頭痛もするので かかりつけ医に行くと「PCR検査!」と言われ、担当する看護師は防護服。駐車場の「車」の中で携帯電話での問診だけで投薬、会計。陰性の連絡があるまで、首宅で大人しくしていました。with コロナに慣れていかないといけないと痛感しました。



問い合わせ先: えひめ日本語ネットワーク事務局

Email: ehime-nihongo@nifty.com